

令和3年度 経験の浅い教員の専門性向上に係る支援体制等構築研究事業
成果報告書

実施機関名（三重県教育委員会）

1. 問題意識・提案背景

- (1) 本県では、特別支援教育の推進を重要な施策のひとつとして位置づけ、「三重県特別支援教育推進基本計画」（令和2年3月改定）の基づき取組を進めている。
- (2) これまでに、発達障害支援に係る支援体制の充実のために国事業の委託し、以下とおり取組を進めてきた。

委託年度	事業名	内容
平成28年度 平成29年度	「通級による指導担当教員等専門性充実事業」	<p>通級による指導担当教員や特別支援学校の特別支援教育コーディネーター（以下、「特別支援学校コーディネーター」という。）の発達障害支援の専門性の向上と指導者の育成を図るために以下の研修を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導担当教員等を対象とした発達障害のある児童生徒の特性の理解や具体的な指導・支援の方法、教材・教具の活用等に係る内容を設定した研修会研修講座（令和3年度まで取組を継続） ・三重県立子ども心身発達医療センターに併設するかがやき特別支援学校が主催する研修会
平成30年度 令和元年度	「発達障害に関する通級による指導担当教員等専門性充実事業」	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級担任と通級による指導担当教員が連携し、通常の学級において発達障害の可能性のある児童生徒が学習上つまづくことなく学習内容を理解できるよう、通級による指導における指導や支援のノウハウの活用について研究を実施
令和元年度		<ul style="list-style-type: none"> ・県立伊勢まなび高等学校において通級による指導を開始し、高等学校における通級による指導のあり方についての実践研究および実践事例の蓄積
令和2年度	「経験の浅い教員の専門性向上に係る支援体制等構築研究事業」	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の発達障害支援に係る支援体制の研究を進めるため、教員としての資質の向上に関する指標（以下「指標」という。）に対応した研修を実施 ・各地域における指導的立場の教員（以下、「発達障害支援アドバイザー」という。）の養成講座を開設（令和2年度及び令和3年度） ・三重大学と連携し、教員養成課程における現行講座「特別支援教育入門」について、地域や学校現場で求められているニーズに対応した教育内容とするために、講座の教授法について検討
令和3年度		<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導担当教員等研修講座において研修毎に指標をふまえたアンケートを実施 ・三重大学と連携し教員養成課程における現行講座「特別支援教育入門」について、発達障害支援アドバイザーによる出前授業等を行うなど、発達障害に関する講座の具体的な教授法について検討

2. 目的・目標

- (1) 通常の学級や通級による指導を担当する経験の浅い教員について、指導・支援に係る専門性向上のために効果的な研修等を実施することにより、支援体制の改善を図る。
- (2) 通常の学級や通級による指導の経験の浅い教員が、日々の指導・支援等について一人で悩むことがないように、相談先の整理や指導的立場の教員による指導・助言等サポート体制

の構築を図る。

- (3) 大学の教員養成課程における「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」について、地域や学校現場で求められているニーズに対応した教育内容とするために、発達障害に関する講座の教授法について検討を行う。

3. 実施体制

(1) 運営協議会

ア. 参加者

所属・職名	名前
三重大学・教授	菊池 紀彦
三重大学・准教授	郷右近 歩
県立子ども心身発達医療センター・副センター長	中西 大介
発達障害支援員スーパーバイザー※1	小栗 正幸
三重県立かがやき特別支援学校・校長	森井 博之
三重県立かがやき特別支援学校特別支援教育コーディネーター・教諭	葛井 良樹
津市立育生小学校 通級による指導担当教員・教諭	辻 大輔
三重県子ども・福祉部・障がい福祉課・主幹	奥田 秀樹
三重県子ども・福祉部・障がい福祉課・主査	石川 昭見
三重県教育委員会事務局・主幹兼係長兼研修主事	田口 万紀
三重県教育委員会事務局・指導主事	石川 真史
三重県教育委員会事務局・指導主事	大倉 武

※1「発達障害支援員スーパーバイザー」は、臨床発達心理士等の資格を持つ発達障害支援コーディネーターである「発達障害支援員」（主に、高等学校における巡回相談や特別支援教育の推進を行っている）に対して指導・助言を行う。

イ. 開催実績

回	参加者	実施日	研修形態	内容
1	・三重大学教育学部教授 ・県立子ども心身発達医療センター医師 ・発達障害支援員スーパーバイザー	5月6日	オンライン	・県内発達障害支援体制について ・経験の浅い教員の専門性向上に係る支援体制等構築研究事業について ・三重大学現行講座「特別支援教育入門」の教授法について
2	・県立かがやき特別支援学校校長 ・特別支援学校コーディネーター ・通級による指導担当教員 ・県子ども・福祉部障がい福祉課担当者	12月21日		・通級による指導担当教員等研修講座の進捗報告 ・三重大学現行講座「特別支援教育入門」の授業シラバス案について ・発達障害支援アドバイザーの活用について
3		3月7日		・次年度の取組について

(2) 連携した大学

国立大学法人三重大学

(3) 専門家の活用

ア. 専門性（特別支援教育など）に関する経歴・所有資格等

- ・三重大学教育学部教授
日本特殊教育学会 日本 LD 学会 日本児童青年精神医学会 日本犯罪心理学会 日本教育心理学会 各会員 等
- ・皇學館大学教育学部准教授
臨床心理士、学校心理士、上級教育カウンセラー、ガイダンスカウンセラー 等
- ・発達障害支援員スーパーバイザー
元鳥取少年鑑別所長、元宮川医療少年院長（平成21年3月退官）、三重県教育委員会発達障害支援員スーパーバイザー、四日市市教育委員会教育支援課スーパーバイザー、宇部フロンティア大学臨床教授、日本 LD 学会代議員・編集委員 特別支援教育士スーパーバイザー（学会連携資格）

イ. 配置状況、活動内容

- ・大学教授は、発達障害支援アドバイザー養成のための研修に係る講義等を行う。各地域における困難なケースに対応するための支援の方法等について指導・助言を行う。
- ・発達障害支援員スーパーバイザーは、発達障害支援員や特別支援学校コーディネーター等に対して、困難なケースに対応できる支援の方法等についての指導・助言を行う。
- ・発達障害支援員スーパーバイザーは、運営協議会に参加し、教員養成課程における教授法や発達障害支援に係るサポート体制について指導・助言を行う。

4. 取組概要・成果（取組全体の概要図は別途参照）

発達障害の可能性のある児童生徒への指導・支援に係る教員の専門性の向上を図るため、教員としての資質の向上に関する指標（※1）に対応した研修等を実施した。（県教育委員会が作成している教員としての資質の向上に関する指標を当課が発達障害支援に再編集した。）

※1 教員としての資質向上に関する指標

資質能力 にかかる項目	教職を担うにあたり必要とされる専門性
	教育課題への対応力
	特別支援教育
教職着任時	発達障害支援を含む特別な支援を必要とする児童生徒への指導・支援の必要性と、児童生徒が互いを尊重し、共に学ぶことの大切さを理解している。
第1ステージ	発達障害の可能性のある児童生徒の特性や実態の把握に基づく指導・支援を行うことができる。また、他の教職員と連携・協力しながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。
第2ステージ	発達障害の可能性のある児童生徒の特性や実態を把握し、指導内容や指導方法を工夫して適切な指導・支援を行うことができる。また、教職員間の共通理解を図りながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。
第3ステージ	発達障害の可能性のある児童生徒の特性や実態に応じた指導・支援を、地域や関係機関と連携し、適切に行うことができる。また、教職員間の共通理解を深めながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。
第4ステージ	発達障害の可能性のある児童生徒の特性や実態に応じた指導・支援を、地域や関係機関と連携し、適切に行うことができる。また、他の教職員に指導・助言しながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を組織的に実践することができる。

○指標をふまえた研修内容のアンケート調査

- ・指標に対応した研修とするため、通級による指導担当教員等研修講座（発達障害専門研修、発達障害エリア研修、発達障害支援研修）終了後に受講者にとって指標に応じた研修内容となっていたかを把握するアンケートを実施した。アンケート内容は、各研修講座が、指標に合った研修となっていたかを2件法（該当する・該当しない）において調査した。
- ・アンケート結果については、概ね指標に合った研修内容となっていた。

【各研修講座におけるアンケート結果】

講座名	講座	各ステージ	参加人数 (人)	該当すると回答 した割合 (%)
発達障害 専門研修	第1・2回	第1・第2ステージ	61	100
	第3・4回	第2・第3ステージ	97	82
	第5・6回	第2・第3ステージ	97	94
	第7・8回	第3ステージ	82	89
発達障害 エリア研 修	北勢地域	第1～第3ステージ	25	96
	中勢地域		19	94
	伊賀地域		17	100
	松阪・南勢・志摩地域		18	83
	東紀州地域		5	100
発達障害 支援研修	第1回		70	96
	第2回		73	96

(1) 教員の専門性向上のための研修等の機会の充実

ア. 発達障害専門研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター ・高等学校の教員等 (第1・第2ステージ) 	8月26日	オンライン	演題：「通級による指導の実践について～できる！できた！が実感できる教室を目指して～」 講師：四日市市立桜小学校 教諭 渡辺 文子
2		8月26日	オンライン	演題：「通級指導教室における指導」 講師：松阪市立第一小学校 教諭 潮田 千尋 松阪市立殿町中学校 教諭 藪 裕子
3	<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター ・高等学校の教員等 (第2・第3ステージ) 	11月30日	集合研修	演題：「発達障害児の次の年代を考えた指導～実践を通して考えていること～」 講師：ことばと発達の教室あおぞら 坂口 幸子
4		11月30日	集合研修	演題：「発達障害児の次の年代を考えた指導～実践を通して考えていること～」 講師：ことばと発達の教室あおぞら 坂口 幸子
5	<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター ・高等学校の教員等 	10月8日	集合研修	演題：「発達障害のある子どもへの学習「動作」における指導法①」 講師：神奈川県立保健福祉大学 笹田 哲

6	(第2・第3ステージ)	10月8日	集合研修	演題:「発達障害のある子どもへの学習「動作」における指導法①」 講師:神奈川県立保健福祉大学 笹田 哲
7	・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター ・高等学校の教員 等 (第3ステージ)	11月11日	集合研修	演題:「WISC-IV 検査結果と発達支援実践の橋渡し - つまづきの原因の理解と対応の探究① -」 講師:日本臨床発達心理士会茨城支部長 大六 一志
8		11月11日	集合研修	演題:「WISC-IV 検査結果と発達支援実践の橋渡し - つまづきの原因の理解と対応の探究② -」 講師:日本臨床発達心理士会茨城支部長 大六 一志
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質向上に関する指標をもとに、教員の発達障害支援の経験やニーズに対応した研修会を実施することで、専門性の向上につなげることができた。 ・オンラインやオンデマンドによる研修を実施することで、授業や研修会場への移動等で受講が困難な教員の研修機会の確保につなげることができた。 				

イ. 発達障害エリア研修

エリア	対象	実施回数	実施日	研修形態	内容
北勢	・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター ・高等学校の教員 等 (第1～第3ステージ)	第1回	2月9日	オンライン	演題:「インクルーシブ教育を目指す～3段階の指導モデルによって～」 講師:特別支援教育士スーパーバイザー 加藤 裕子
中勢		第1回	12月24日	集合研修	演題:「通常の学級における特別な配慮が必要な子どもへの支援について」 講師:県立かがやき特別支援学校あすなろ分校 教育ケースマネジャー 教諭 谷崎 正純 他
		第2回			情報交換会: ケース検討等
伊賀		第1回	8月6日	集合研修	演題:「癇癪およびパニック行動に焦点化した認知行動療法」 講師:三重大学教育学部特別支援講座 教授 松浦 直己
		第2回	11月19日		情報交換会: 通級による指導の指導・支援状況および実践紹介等
松阪・南勢・志摩		第1回	12月17日	集合研修	演題:「自己肯定感を育む～支援のあり方で大切にしたいこと～」 講師:県立特別支援学校玉城わかば学園 特別支援教育コーディネーター 富安 みゆき
		第2回			情報交換会: 各校の取組状況の交流
東紀州		第1回	8月6日	集合研修 オンライン	演題:「『発達のつまづき』から読み解くアプローチ」 講師:東京都立矢口特別支援学校 主任教諭 川上 康則
		第2回	11月26日		情報交換会: 教材教具についての情報交換、課題点
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導担当教員と特別支援学校コーディネーターが指導方法や関係機関等の情報を共有する 					

ことで各エリア内での連携が深まった。

- ・通級による指導の経験の豊かな教員や特別支援学校コーディネーターが、経験の浅い教員への具体的な指導方法や教材の紹介についてアドバイスを行うことで、経験の浅い教員の専門性の向上につなげることができた。
- ・テーマに沿った情報交換や個別ケースの相談の時間を設定することで、経験の浅い通級による指導担当教員が具体的に指導方法等について相談することや、通級による指導における課題の解決につなげることができた。

ウ. 発達障害支援研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導担当教員 ・特別支援学校コーディネーター ・小中高等学校の教員等(第1～第3ステージ) 	8月19日	オンライン	演題：「発達障害支援における一視点 姿勢・運動について理学療法士の立場での助言」 講師：県立子ども心身発達医療センター 理学療法士 古川 敦
2		8月24日		講演：「あすなる分校の取組～実践報告会～」 (小学部、中学部、あすなる分校のセンター的機能について) 講師：県立かがやき特別支援学校 あすなる分校教員
○主な成果 ・医療と連携した発達障害支援を行うかがやき特別支援学校あすなる分校の実践や、県立子ども心身発達医療センターの理学療法士から身体に焦点を当てた発達障害支援の取組を通して、多様な発達障害支援の取組を知る機会となり、専門性の向上につなげることができた。				

エ. 発達障害支援実地研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1 ～ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校コーディネーター (第2・第3ステージ) 	①10月12日	集合研修	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害のある児童生徒の実態把握(授業参観) ・発達障害の特性に応じた指導・支援(授業参観) ・県立子ども心身発達医療センターのケースカンファレンス(見学) ・県立かがやき特別支援学校の医療と連携した発達障害支援の取組(講義・事例検討)
10月15日				
10月18日				
10月19日				
10月20日				
②11月10日				
11月12日				
11月16日				
11月17日				
11月18日				
③12月6日				
12月7日				
12月8日				
12月9日				
12月10日				
○主な成果 ・発達障害支援の機会が少ない特別支援学校コーディネーターが、かがやき特別支援学校あすなる分校において体験的に研修することで、発達障害支援の専門性の向上につなげることができた。 ・特別支援学校コーディネーターが、小中学校から要請があった発達障害支援について対応が困難な場合、かがやき特別支援学校あすなる分校に相談するなど連携を深める機会となった。 ・県立子ども心身発達医療センターが開催するケースカンファレンスの様子を参加者が見学することで医療と教育との連携方法等を知る機会となった。				

オ. 特別支援学級等新担当教員研修

回	対象	実施日	研修形態	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級を新たに担当する教員 ・通級による指導を新 	5月11日 5月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン ①～⑧の中から1講座選択 	① 知的障害 講師：三重県立くわな特別支援学校 教諭 石井 圭子

	<p>たに担当する教員 (第1ステージ)</p>		<p>・ネットDE 研修</p> <p>② 自閉症 講師：三重県立くわな特別支援学校 教諭 永井 優希</p> <p>③ 情緒障害 講師：津市立豊津小学校 教頭 平松 有吾</p> <p>④ 肢体不自由 講師：三重県立度会特別支援学校 教諭 中野 正尚</p> <p>⑤ 病弱・虚弱 講師：三重県立かがやき特別支援学校 教諭 辻野 弘子</p> <p>⑥ 視覚障害 講師：三重県立盲学校 教諭 東 浩美</p> <p>⑦ 言語障害 講師：津市立育生小学校 教諭 辻 大輔</p> <p>⑧ 聴覚障害 講師：三重県立聾学校 教諭 南部 恵子</p> <p>・ネットDE研修 「三重県の特別支援教育について」 「特別支援学級等担当の心構え」</p>
2		<p>4月20日 ～8月31日</p>	<p>ネットDE研修 ①～⑩の中から2講座選択</p> <p>①「N I T S 校内研修シリーズ No17 特別支援教育の実際」</p> <p>②「N I T S 校内研修シリーズ No20 特別支援教育総論」</p> <p>③「N I T S 校内研修シリーズ No78 病弱教育におけるICT活用」</p> <p>④「ICTを活用した支援」</p> <p>⑤「医療的ケアを必要とする子どもと家族が 地域で暮らすこと」</p> <p>⑥「気になる子どもへの指導と保護者支援の 実際」</p> <p>⑦「特別支援教育 ー通常の学級における教 科指導ー」</p> <p>⑧「自閉症の理解を求めてー息子とともに生 きてー」</p> <p>⑨「手話入門ーコミュニケーションをとるた めにー」</p> <p>⑩「発達障害のある子のための教育支援モデ ル」</p> <p>⑪「クラスの中にある『気になる子ども』を どう支援するか」</p> <p>⑫「特別支援教育における『個別の指導計画』」</p> <p>⑬「通常学級で無理なくできるユニバーサル デザイン～あったかクラスづくり～」</p> <p>⑭「学級づくりに活かすソーシャルスキルト レーニング」</p> <p>⑮「発達障害のある子の健康と身体づくり」</p> <p>⑯「発達障害のある子を支えるー認知の歪み から起こる感情・行動を変える」</p>

3	① 8月24日 ② 8月17日 ③ 8月20日 ④ 7月27日 ⑤ 7月27日	①②③オンライン ④⑤集合研修 ①～⑤の中から1講座選択	①「通常学級における特別な支援」 講師：桃山学院教育大学 教授 松久 眞実 ②「合理的配慮に基づいた ICT 活用」 講師：香川大学 教授 坂井 聡 ③「困り感のある子への支援－姿勢や身体の動き」 講師：鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 助教 多田 智美 ④特別支援教育基礎講座1「初めての特別支援教育－実践につながる知識とスキル－」 講師：県立特別支援学校玉城わかば学園 校長 越知 ひとみ ⑤特別支援教育基礎講座2「適切な支援を考える－事例検討の理論と実践－」 講師：津市立豊津小学校 教頭 平松 有吾
	7月1日 ～1月28日		令和3年度 県立特別支援学校が行う公開講座
<p>・特別支援学級や通級による指導を新たに担当する教員が、障害の特性に応じた適切な支援の方法や特別支援学級経営等の具体的事例等について、各自で必要な講座を選択し受講することで、担当教員としての専門性の向上を図ることができた。</p>			

カ. 発達障害支援アドバイザー養成研修（第1期後期分15講座）

回	対象	実施日	研修形態	内容
1 ～ 15	・通級による指導担当教員 ・特別支援学校の教員 ・市町教育委員会指導主事 (第4ステージ)	5月18日 6月7日 6月24日 7月7日 7月12日 9月10日 9月30日 10月6日 10月20日 11月5日 11月22日 12月1日 1月26日 2月4日 2月15日	集合研修 オンライン	講義： ・精神障害の基礎① ・精神障害の基礎② ・統合失調症 ・双極性障害および抑うつ障害 ・パーソナリティ障害摂食障害① ・パーソナリティ障害摂食障害② ・ストレス関連障害、解離性障害 ・物質関連障害 ・精神障害の薬物療法 ・学校での認知行動療法 ・対人援助スキル対応の難しい子ども、保護者に対して ・福祉との役割 ・司法との役割 ・医療との役割① ・医療との役割② 講師：三重大学教育学部教授 松浦 直己
<p>○主な成果</p> <p>・令和2年度に引き続き、発達障害支援に係る高度な指導・支援の専門性を学ぶことで、各地域における発達障害支援を中心的に担い、指導的立場となる発達障害支援アドバイザーを15名養成した。</p> <p>・座学に加え、事例検討の時間を設定することで、発達障害のある児童生徒の実態把握する力が高めることができた。</p>				

(2) 経験の浅い教員への指導・助言などのサポート体制の構築

ア. 通級による指導等専門性充実検討会議

回	参加者	実施日	場所等	内容
1	・発達障害支援員 ・発達障害支援員スーパーバイザー	7月13日	県立みえ夢学園高等学校	・高等学校における通級による指導について ・みえ夢学園高等学校での通級による指導について
2	・皇學館大學教授 ・高等学校特別支援教育コーディネーター ・特別支援学校特別支援教育コーディネーター	12月15日	県立みえ夢学園高等学校	・先進校視察報告 ・みえ夢学園高等学校における発達障害支援の現状について ・通級による指導の対象となる生徒
3	・通級による指導担当教員	2月28日	県立みえ夢学園高等学校 (オンライン)	・みえ夢学園高等学校における通級による指導について(授業参観と事後協議)
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢まなび高等学校における通級による指導の取組の実践をもとに、みえ夢学園高等学校における通級による指導を開始するために必要な対象者の選定のポイントや、個別の指導についての協議を重ねることができた。 ・県立特別支援学校玉城わかば学園のセンター的機能による伊勢まなび高等学校に対する支援について会議で共有したことにより、みえ夢学園高等学校に対する稲葉特別支援学校の支援の方向性及び支援の方法について確認することができた。 ・通級による指導の授業参観を通じて、自立活動の指導についての課題設定や指導の方法等について検討したり、専門家の助言を受けたりすることで、高等学校における通級による指導担当教員や特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図ることができた。 				

イ. 発達障害支援情報交換会

回	参加者	実施日	場所等	内容
1		4月7日	県総合教育センター	・高等学校における通級による指導について ・県内高等学校の発達障害支援について
2		5月15日	県総合教育センター (オンライン)	・令和2年度末の中学校から高等学校への支援情報の引継ぎ実績について
3	・発達障害支援員スーパーバイザー ・発達障害支援員 ・特別支援学校コーディネーター	8月17日	県吉田山会館(オンライン)	・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎに係る「引継ぎシート」の作成について ・県内高等学校の発達障害支援の現状についての情報交換
4		10月1日	県勤労者総合福祉会館	・「引継ぎシート」についての検討 ・県内高等学校の発達障害支援の現状についての情報交換
5		12月1日	県総合教育センター	・発達障害支援員と特別支援学校のコーディネーターが連携した高等学校支援について ・県内高等学校の発達障害支援の現状についての情報交換
6		1月21日	県総合教育センター	・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて

				・発達障害支援員と特別支援学校のコーディネーターが連携した高等学校支援について
7		3月7日	県総合教育センター	・次年度の取組について
<p>○主な成果</p> <p>・発達障害支援員と特別支援学校コーディネーターが、県内高等学校の発達障害支援の現状や支援のニーズについての情報を共有し、発達障害支援員の専門性が必要な支援と特別支援学校のセンター的機能による支援が対応可能なケースを明らかにすることで、高等学校に対する発達障害支援についてそれぞれの専門性を生かして効果的に進められるよう整理することができた。</p>				

ウ. 高等学校特別支援教育コーディネーター会議

回	参加者	実施日	場所等	内容
1		5月31日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における特別支援教育の推進について ・特別支援教育コーディネーターの役割について講演 ・情報交換会（地域別） テーマ：校内の特別支援教育の推進に係る課題について
2	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害支援員スーパーバイザー ・発達障害支援員 ・高等学校特別支援教育コーディネーター ・特別支援学校コーディネーター 	10月1日	オンライン（特別支援学校コーディネーター会議合同開催）	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて ・講義①：「大学における発達障害支援について」 三重大学障害学生支援機構 風間 惇希 ・講義②：「就労後の支援について」 障害者就業・生活支援センター ふらっと 所長 後藤 勇介 ・情報交換会（地域別）
3		1月21日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて ・高等学校における通級による指導について ・発達障害支援員スーパーバイザーによる講演
<p>・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて、高等学校が必要とする支援情報が中学校から確実に引継がれるよう、高等学校コーディネーターの意見や発達障害支援員の助言を集約した引継ぎシートを作成し、市町等教育委員会を通じて各中学校に配付することで、支援情報を整理することができた。</p> <p>・三重大学の学生総合支援センター教員や障害者就業・生活支援センター職員の講演を通して、卒業後に受けられる支援や高等学校段階で身につけておくべき力を知ること、大学生活での合理的配慮や発達障害のある生徒の就労後の支援などについて確認することができた。</p>				

エ. 特別支援学校特別支援教育コーディネーター会議

回	参加者	実施日	場所等	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害支援員スーパーバイザー ・発達障害支援員 ・高等学校特別支援教育コーディネーター ・特別支援学校コーディネーター 	5月21日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校センター的機能ガイドブックの改訂について ・特別支援学校のセンター的機能による地域支援の実施状況について ・高等学校における特別支援学校のセンター的機能を活用した支援について

				・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎに係る特別支援学校のセンター的機能の活用について
2		10月1日	オンライン (特別支援学校コーディネーター会議合同開催)	・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて ・講義①：「大学における発達障害支援について」 三重大学障害学生支援機構 風間 惇希 ・講義②：「就労後の支援について」 障害者就業・生活支援センター ふうらっと 所長 後藤 勇介 ・情報交換会（地域別）
3		2月10日	オンライン	・高等学校における特別支援学校のセンター的機能を活用した支援について ・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて ・発達障害支援アドバイザーの活用について
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校が、特別支援学校センター的機能を活用できるよう、特別支援学校コーディネーターと発達障害支援員が連携した高等学校への発達障害支援について検討した結果をガイドブックに追記し、特別支援学校コーディネーター会議にて周知した。 ・中学校から高等学校への支援情報の引継ぎについて、高等学校のニーズに対応した引継ぎシートを作成するとともに、その活用について特別支援学校コーディネーター会議にて周知することで、引継ぎシートを活用した高等学校への支援方法について理解を図った。 ・発達障害支援アドバイザーの役割や相談手続きなどを整理したうえで、通級による指導を担当する教員等へ発達障害支援アドバイザーの活用の周知を図るため、チラシ「通級による指導等を担当する教員の皆さんへ」を作成した。 				

オ. 小中学校におけるVR機器を活用したソーシャルスキルトレーニングについて

<p>○概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導において、発達障害のある児童生徒にVR機器を用いた教育実践を行い、指導における成果や課題を検証 ・通級による指導（自校・他校）に通う小学校第6学年4名（男子2名、女子2名）を対象（他の児童とのコミュニケーションや対人関係に困難さがある児童を選定） 				
回	参加者	実施日	場所等	内容
1	・発達障害支援アドバイザー ・特別支援学校コーディネーター ・市町教育委員会特別支援教育主管課指導主事	4月28日	オンライン	・VR機器を活用した指導方法 ・VR機器の活用に係る留意点
2	・VR機器開発業者（12月23日のみ）	12月23日	オンライン	・今年度の取組に係る成果と課題 ・次年度の取組
<p>○主な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気が散りやすい児童であっても集中して学習に取り組むことができた。 ・VR機器は、繰り返し学習することができる利点があり、児童は失敗しても学習意欲を減退することなく心理的にも安心して学習に取り組むことができた。 ・VR機器に投影される映像コンテンツの内容を見通して選択することができた。 				

(3) 現状に即した教員養成課程における教授法の検討

ア. 授業シラバス作成のためのワーキング開催実績

回	参加者	実施日	研修形態	内容
1	・三重大学教育学部教授 ・特別支援学校コーディネーター ・発達障害支援アドバイザー ・三重大学教育学部特別支援教育コース学生（1年）	10月8日	オンライン	・本事業についておよび特別支援教育の概要 ・発達障害の概要 ・通常の学級における発達障害支援の現状
2	・県教育委員会特別支援教育課指導主事	10月15日		・通級指導教室における発達障害支援での現状 ・特別支援学校における発達障害支援の現状
3	・三重大学教育学部教授 ・発達障害支援アドバイザー ・県教育委員会特別支援教育課指導主事	10月29日		・授業シラバス案について

イ. 目的

国立大学法人三重大学と県教育委員会が協働し、令和元年度から大学の教員養成課程において必修となった「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」（三重大学教育学部現行講座「特別支援教育入門」）の教育内容（特に発達障害支援）について、地域や学校現場のニーズに対応した授業シラバス案について検討する。

ウ. 今年度の取組

- ・特別支援学校、小学校の発達障害支援アドバイザーが三重大学教育学部1年生（約200名）に対して出前授業を実施し、授業シラバス案の具体的な内容を検討した（10月8日・15日）。
- ・学生の意識の変化をとらえるため、10月8日の受講前と10月15日の受講後にアンケートを実施した。
- ・大学教授、出前授業に講師として参加した発達障害支援アドバイザー、県教育委員会指導主事が授業シラバス案へ反映することが望ましい内容について協議した（10月29日）。

エ. 今年度の成果

- ・発達障害支援アドバイザーから、発達障害のある児童生徒との関わりや教員と児童生徒との関係性の中で互いに成長していく姿などを伝えることで、学生が将来教員となったときの具体的なイメージを持つことができ、発達障害支援への関心が高めることができた。

【参考】アンケート結果について

問	質問項目	選択項目	受講前 (%) 回答数：206名	受講後 (%) 回答数：197名
1	自分自身が「発達障害」について他者に説明できますか。	できる	4.3	17.3
		ややできる	24.8	69.5
		あまりできない	63.6	13.2
		全くできない	7.3	0
2	自分自身が発達障害のある子どもへの指導・支援について他者に説明できま	できる	0.9	19.3
		ややできる	11.7	67.0

	すか。	余りできない	67.0	13.7
		全くできない	20.4	0
3	発達障害のある子どもがどのような学級・学校に在籍してるのか知っていますか。	知っている	21.4	60.4
		やや知っている	64.1	38.6
		余り知らない	12.6	1.0
		全く知らない	1.9	0
4	教育ボランティアなどに参加してみたいと思いますか。	思う	47.6	53.8
		やや思う	39.8	34.5
		余り思わない	11.7	10.7
		全く思わない	0.9	1.0
5	教育ボランティアなどで発達障害のある子どもたちの指導・支援をやりたい。あるいは、発達障害のある子どもたちとの関わりをもちたいと思いますか。	思う	32.5	43.7
		やや思う	45.6	40.6
		余り思わない	20.4	15.2
		全く思わない	1.5	0.5

オ. 授業シラバスへ反映することが望ましい内容

- ・特別支援学校、小学校の発達障害支援アドバイザーによる具体的な事例を用いた出前授業が効果的であったことから、授業シラバスに発達障害支援の現状についての出前授業を入れる。
- ・「特別支援教育入門」は、教育学部1年次において履修すべき単位として位置づけられており、1年次以外の学生が発達障害支援に係る内容を学ぶ機会をもつ。

カ. 次年度の取組

○授業シラバス案の作成・協議

- ・現行講座の1年次「特別支援教育入門」および4年次「教職実践演習」について、大学関係者、発達障害支援アドバイザー、医療関係者等を中心に具体的な教授法を運営協議会等で協議
- ・発達障害支援アドバイザー等が、現行講座（「特別支援教育入門」（2講座）、「教職実践演習」（1講座））において出前授業を実施

○授業シラバス作成のためのワーキングの実施

- ・大学関係者、学生、発達障害支援アドバイザー等がワーキングを実施し、地域や学校現場で求められる授業シラバス案の具体的な内容を協議

5. 今後の課題と対応

県内において発達障害支援が継続的に提供できるよう、発達障害支援アドバイザーを中心として小中高等学校および特別支援学校のネットワークを強化するとともに、経験の浅い教員の専門性の向上や指導的立場の教員等の育成を目指した研修を引き続き行う必要があることから、令和4年度は、以下のとおり取り組む。

- (1) 発達障害の可能性のある児童生徒への指導・支援に係る教員の専門性の向上を図るため、教員としての資質の向上に関する指標に対応した研修等を実施する。
- (2) 受講した教員が発達障害支援を担うにあたり必要とされる専門性を身につけることができたかについて、参加者へのアンケート調査で各研修後にふりかえることにより、教員の指導の実践力に関する評価を行う。成果と課題については、運営協議会で協議し、次年度の研修計画に反映する。
- (3) 通級による指導担当教員や特別支援学校コーディネーターでは対応が困難なケースについ

ては、発達障害支援アドバイザーにつなぐなど、発達障害支援アドバイザーを中心とした支援体制の充実を図る。

- (4) 発達障害に係る広域的な支援や教員の経験年数に対応したサポートが円滑に行えるよう、特別支援学校センター的機能ガイドブックを活用して、相談窓口や手続き等について、各市町等教育委員会、県立学校等に周知を図る。
- (5) 作成したシラバス案を可能な範囲で現行の講座内容に取り入れることで、教員養成課程における授業内容の充実を図る。

6. 問合せ先

組織名：三重県教育委員会

担当部署：三重県教育委員会事務局特別支援教育課